

さあ、はじまります。 リサイクルを考える、コミュニケーション誌。

「紙」は、再生可能な資源である「木」を原料とした製品です。
「紙」を原料とした「エヌピーバック」もリサイクルを推進することで、再びトイレットペーパー等に生まれ変わります。
日本紙パックは、私たちの生活の中でもっとも身近で環境にやさしい「紙」を使った容器を提供している誇りを胸に、「リサイクル」について皆様と共に考えるコミュニケーション誌「NP-PAK ism」を発行いたします。今後のご愛読をよろしくお願いたします。

日本紙パック株式会社
代表取締役社長 前田 利洋

FEATURE

日本紙パック株式会社【環境方針】

日本紙パック環境憲章基本理念

日本紙パックは、人と自然と調和する持続可能な企業活動を基本に、常に環境負荷の低減に配慮した紙製液体食品容器、包装材料等の製品を提供し、循環型社会の形成と地球規模での環境保護を目指した活動に積極的に取り組む。

日本紙パック株式会社は、飲料・食品・家庭用品等の包装メーカーのリーダー企業を目指し、安全・安心で環境にやさしい、紙を主体とする包装システムとして顧客に提供し、その発展に貢献します。地球規模の環境保全と経済活動の調和が強く求められる今、紙とその源泉である森林資源を大切にしている日本製紙(株)の関連会社として、社会に貢献し、環境に配慮した事業展開をします。当社基本理念を踏まえ、自然環境及び社会との共生を重んじ、環境管理活動の継続的改善に取り組むことを事業の最重要課題の一つとし、下記の事項を定めます。

- (1) 当社の事業活動である紙製容器、紙加工品、プラスチック加工品、包装用フィルム等の生産委託・販売、研究開発、紙パック充填機及び包装用機械の生産委託・販売・メンテナンスサービス、デザイン・製版業務の全ての段階において省資源、リユース、リサイクルの促進、廃棄物の削減、省エネルギー等、環境保全に配慮した生産活動と製品の提供に努めます。
- (2) 環境負荷物質の管理と抑制を強化し、継続的な環境改善と環境汚染の未然防止に努めます。また、国、地方自治体等の環境関連法律、及びその他の要求事項を遵守する事はもとより、自主管理基準を設定し、管理レベルの向上に努めます。
- (3) 製造技術及び新製品の開発に当たっては、環境負荷が少なくなる様に配慮します。
- (4) 環境方針の遂行の為、年度毎に環境目的及び環境目標を設定し、定期的な見直しを行い、計画的な改善に努めます。
- (5) 環境方針は、文書化し、実施し、維持するとともに、掲示及びカード化して当社全員へ配付し、周知徹底します。
- (6) 環境方針は、一般の人の要求に対しこれを開示します。また、環境関連情報を積極的に開示し、社内外とのコミュニケーションを図ります。

平成 17 年 6 月 16 日

Topics

エコプロダクツ 2005 開催告知 見て、聞いて、触れてエコを体感

わが国最大級の環境展が 12/15 (木) ~ 17 (土) 東京ビッグサイトにて開催されます。環境への関心の高さから年々活況を呈し、昨年は 12 万人以上の方々が登場されました。日本紙パックも日本製紙グループとして出展予定。また、全国牛乳容器環境協議会の出展もあり、手すきはがきづくりを体験できます。入場は無料。

フィンランド視察 紙パックのふるさとを訪ねる。

紙パック LCA 調査の一環として、全国牛乳容器環境協議会は全国パック連とともに、9 月中旬に紙パック原紙の故郷であるフィンランドを視察。行き届いた森林管理、機械化された伐採風景の見学・植林を体験し、たいへん有意義な訪問となりました。次号本誌にて詳しくご紹介してまいります。

1 北米・北欧の森



エヌピーパックの原紙は、ほとんどが北米・北欧から輸入されています。原料は製材工場から出される端材などであり、住宅や家具用木材を製材する過程で選別された部分を細かく碎き、チップ(2~3cm角の木片)にしたものを主に使用しています。また、木を伐採した後は必ず植林を行っており、50~100年のサイクルで計画的な育成を実施しています。



2 原紙メーカー



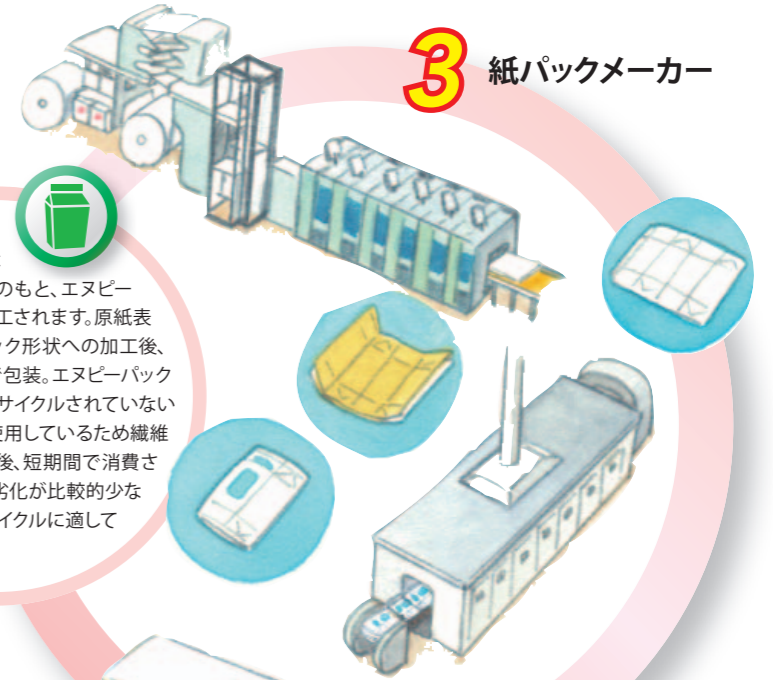
チップは薬品とともに煮込まれ、木材中の繊維が分離されてパルプとなり、脱水・乾燥を経て紙の状態になります。さらに液体が外にもれないようにポリエチレン加工をしてエヌピーパック原紙の完成です。これらの原紙は巻取りの状態で日本へ輸送されます。



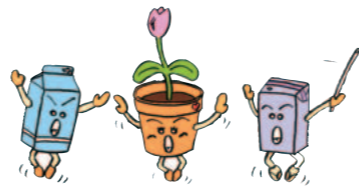
3 紙パックメーカー



原紙巻取りは厳しい品質管理のもと、エヌピーパックカートンに加工されます。原紙表面に印刷を行い、パック形状への加工後、折りたたまれた状態で包装。エヌピーパックはパージパルプ(リサイクルされていない未使用のパルプ)を使用しているため繊維の強度が強く、生産後、短期間で消費されるため、繊維の劣化が比較的少ないことからリサイクルに適しています。



エヌピーパックの一生



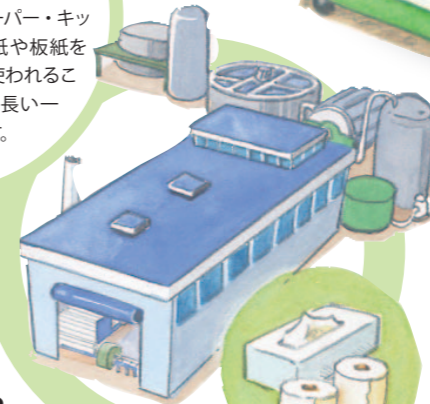
原料の育成からはじまるいくつもの段階を経て、NP-PAK は生み出されています。

次号より、リサイクルへつながる各工程での作業風景を 北米・北欧の森 原紙メーカー 紙パックメーカー

飲料メーカー 消費・回収 再生 それぞれの視点から、より詳しくお伝えしていきます。



使用済エヌピーパックは回収業者や自治体によって集められ、再生紙メーカーに持ち込まれます。メーカーでは使用済パックからトイレトペーパー・キッチンペーパーなどの家庭紙や板紙を生産。これらの再生品が使われることで、エヌピーパックの長い一生は完結するのです。



5 一般家庭・学校・飲食店



6 古紙回収業者から再生紙メーカー・リサイクル製品まで

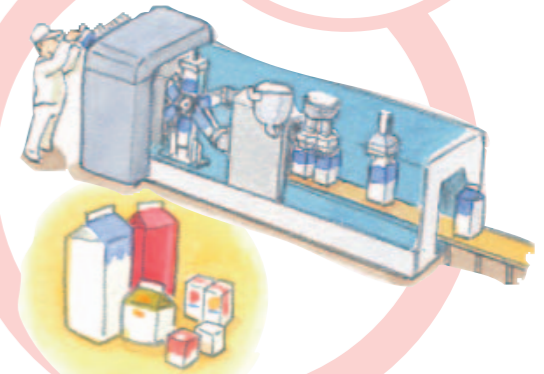


販売店など



納入されたエヌピーパックカートンは、エヌピーパック充填機(飲料を詰める機械)によって牛乳・ジュースなどがカートン内に注ぎ込まれ、商品となります。エヌピーパックカートンは他の容器と比べ軽量かつスペースをとらないため、輸送効率に優れています。

4 飲料メーカー



使用済みのエヌピーパックは各家庭や学校などで「洗って、開いて、乾かして」まとめて、リサイクルBOXなどで集められます。紙パックは学校で環境教育を実施するにあたり、最も身近なリサイクル体験ができる教材として注目されており、「全国牛乳パックの再利用を考える連絡会」や「全国牛乳容器環境協議会」のような市民団体・業界団体で推進活動を行なっています。

紙パックリサイクルのゆくえ

第19回 牛乳パックの再利用を考える全国大会



平成 17 年 8 月 6 日・7 日、大阪にて全国パック連主催のもと、熱い議論が繰り広げられた。紙パック再利用は、上質パルプ使用のパックを捨ててしまうのはもったいないという一人の主婦の提唱により広まり、日本のリサイクル運動の象徴となっている。

市民運動として始まったリサイクルも現状、コストや容器包装リサイクル法などさまざまな問題を抱えている。コーディネーターの惣宇利氏は、

再生品を使うのは文化であり優しさであるとし、費用・役割を市民・企業・メーカーがフェアな形で分担する途を考えていきたいと述べた。

今回は第 20 回の記念大会として紙パックリサイクル運動発祥の地、山梨にて開催予定。

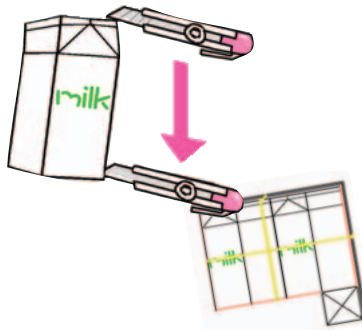


赤星たみこの Milk Break

牛乳パックをリサイクルに出すとき、「洗って切って干して束ねて」出しますが、みなさん、どうやって切っていますか？

キッチンバサミを使う人が一番多いと思いますが、私のお勧めの切る道具は普通のカッターナイフ。スーパーの文房具コーナーにあります。これだと紙パックのどこでも突き刺してそのまま引けば切れるので便利なんです。使ったあとちょっと拭いておくと錆びません。でも、錆びたり切れ味が悪くなったらパキパキ折って新しい刃先を出して使えますよ。カッターの代わりに包丁を使う人もいます。直線しか切らないので、ハサミより切りやすいのかもしれない。

紙パックをリサイクルに出すのは面倒だと



言う方も、道具をちょっと工夫するとすぐくやりやすくなりますから、一度いろいろためてみてはいかがでしょうか。手間が省けるとラクチンですよ！

※カッターをご使用の際は、お手元に十分お気をつけ下さい。

■エコや家事に関する著書多数の漫画家・赤星たみこさんがリサイクルについてのコラムを、今後連載していきます。

紙パックリサイクルについてさらに詳しい情報をお知りになりたい方は下記 URL をご覧ください。

<http://www.nipponpaper-pak.com/>

また、各種お問い合わせは下記 e-mail よりご連絡ください。
npp-qa@nipponpaper-pak.co.jp

用語解説

“PURE-PAK®”ってどんな意味？ 紙パック誕生とその語源

1900 年代配達で苦勞していた重くて割れるガラス瓶の代わりに、米国オハイオ州のおもちゃ製造会社オーナーであった John van Wormer 氏が屋根型紙容器の原型を 1915 年に特許出願しました。牛乳容器の歴史の中で、紙容器の軽さや扱いやすさは驚くべきことでした。“PURE-PAK”（ピュアパック）と呼ばれるようになった所以は、混ざりものない、清潔なという意味を持つ “PURE” と、容器の “PACKAGE” を組み合わせたことが始まりとされています。“PURE-PAK” は 1950 年代に登録された商標登録名なのです。



※ PURE-PAK® は、2008 年 1 月より NP-PAK に名称を変更いたしました。



日本紙パック 環境情報誌 NP-PAKism Vol.1 2005 年 11 月発行

編集：日本紙パック株式会社 〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-2-2

TEL (03)6665-5555 (代表) FAX (03)3212-0605 e-mail npp-qa@nipponpaper-pak.co.jp URL <http://www.nipponpaper-pak.com>